



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



今こそチャレンジ!

歯学部長 宮崎 隆

アベノミクスで日本の経済に光明が見えてきたとは言え、長引く経済不況の中で産業界、とりわけ中小の町工場は疲弊してきました。しかし、その中でも元気のある経営者はいます。地元旗の台で、プラスチック部品の金型を作製している株式会社新興セルビックの竹内 宏社長もその一人です。プラスチックの部品を作るには大掛かりな射出成形機が必要でしたが、竹内さんは20年近くかけて、卓上サイズで廃材のでない独創的な超小型射出成形機を開発しました。2005年には「第1回ものづくり日本大賞」を受賞しました。我が国を代表する大手企業の研究者がチームで受賞しているなか、個人での受賞です。さらに、2011年にはNHK「プロフェッショナル仕事の流儀」にも出演しています。去る4月13-14日に、私の専門領域である日本歯科理工学会学術講演会を大会長としてお世話しました。この学会は我が国の歯学系学会のなかでも歴史のある学会で、研究者、臨床医、産業界の立場の会員が一同に会して、新しい歯科材料・器械や診療技術の開発を通じて、歯科医療の発展に貢献してきました。今回の学術講演会では、竹内 宏さんを講師に迎えて、明日の研究開発に向けて活力がでるように、特別講演を企画しました。特別講演のタイトルは、「群れない、媚びない、属さないー 町工場からのイノベーション」でした。開発に至った着想や、試作機からの開発の苦労話もさることながら、群れないこと、媚びないこと、属さないことに加えて、やめないこと、あきらめないことがプロフェッショナルであり、独創力(イノベーション)が町工場の誇りであるという竹内さんの生き様に感動を覚えました。

歯科医療を取り巻く環境が非常に厳しいと言われるかもしれませんが、私たちは患者のために最高の歯科医療を提供し、それを支える基礎ならびに臨床研究を推進し、患者に貢献できる高いプロフェッショナルの資質を身につけた次世代の歯科医療人を教育しなくてはなりません。そのためには我々職員や学生が、自ら能動的に患者と家族のために問題を解決していく能力と



意欲を身につけ、そして持ち続けることが必要です。本学が現在取り組んでいる教育の方向性は間違っていないと思います。私自身、今回の竹内さんの講演を拝聴して、改めて元気を頂戴しました。勇気をもって教育改革に取り組んでいきましょう。

朝日大学教授に就任しました

歯科理工学部門 玉置幸道

4月1日付で朝日大学口腔機能修復学講座歯科理工学分野の教授に就任しました。着任までの準備期間が短かったので3月中に住まいを決めるまでには至らず、結局10日間はホテルを常宿としていました。翌4月1日に新規採用職員の辞令交付式があり、一番の年長者ということもあったのですが、代



表して建学の精神を盛り込んだ挨拶を述べました。日本歯科理工学会学術講演会が昭和大学主催で、しかも赴任早々であったこともあり、教室の職員とも研究や教育の話題で速やかにうちとけることができました。朝日大学は昭和に比べると学生も多いのですが、シラバス作成で授業数が多いことに驚かされました。3年以外の全学年に歯科理工の授業枠があり、しかも短期集中型をモットーに、ある学年では3日連続で歯科理工の講義を朝の9時から夕方4時まで行う日程になっていました。授業をする側も受講する側もたいへんだらうと思われるのですが、周期的に授業を行うよりも効率が良い、との見方をされているようです。その代り実習枠が少なく、この授業と実習のバランス辺りは今後改良の余地があるのかなとも思いますが、実習室は他講座との共用なので使用状況に依存する面が強いためカリキュラムを決めるのは難しいのかもしれませんが、なにはともあれ、一度経験してみないとわからない部分が多くあるようです。役職名が変わったことで、教育や研究といった部分とは乖離した、今まで見えなかった責務がたくさんあることも初めて解りましたが、自然体で昭和大学の名を汚さぬようにこの地で頑張っていきたいと思えます。

最後になりますが、教授となるまでに育ててくれた昭和大学の諸先生方、職員の方々、直接支えてくれた歯科理工学教室員の皆様、そして何よりもこのような機会を授けてくださった宮崎歯学部長に、紙面を借りまして、厚く御礼を申し上げます。

D5中井健人君が JADR/Joseph Lister Award を受賞しました

口腔生理学講座 中村 史朗

本歯学部5年生の中井健人君が、2013年度 JADR(国際歯科研究学会日本部会)/Joseph Lister Award 国内受賞者に決定しました。本賞は、歯学の発展に寄与する若手研究者の育成を目的として歯学部学生を対象に設けられた賞です。中井健人君は、昨年4年生の時に「大学院マルチドクタープログラム歯学研究科コース」を選択し、受賞テーマである「三叉神経運動ニューロン樹状突起における情報処理機構」に関する研究を週1~2回1年間にわたり口腔生理学講座で行ってきました。本研究では、咀嚼の制御メカニズムの解明につながる非常に興味深い結果を得ることができ、将来の更なる発展が期待されます。同君はこの後 Asia Pacific Region (APR)/Joseph Lister Award 候補者として2013年8月にバンコクで開催される第2回 APR 学術大会に派遣され、APR 各



Division, Section から推薦を受けた候補者とともに Poster-Discussion 形式での発表を行う予定です。

香港大学で選択実習を行いました

歯学部6年 成田健志

選択実習として香港大学に行き参りました。主な実習内容は診療見学、PBL への参加、ポリクリの見学、技工所や学生実習見学など毎日日替わりのプログラムを組んでいただき多くの学生や先生方と交流する事ができました。日本とは様々な点で異なり、経験した事は非常に多くありますが、やはり一番驚いたのは2年生から5年生までポリクリ生として患者さんが配当され治療をしていた事です。7-8人の学生に1人の tutor が付くのですが、基本的に治療は全て学生がやる事になっています。2年生が浸潤麻酔から根治、形成、印象まで1人でやっている事が信じられず、しばらく彼らを5年生だと思いついていました。また、先生が「拡大鏡をロッカーに置いて来るなんて練習にならないじゃないか」と学生に注意していましたが、基本的に歯内治療はもちろんの事、修復や補綴治療においても拡大鏡下で行うのが当たり前との事です。



3年生でもマイクロスコープを使う学生がおり、4年生では当たり前のようにマイクロスコープを使用していた事にも驚きました。授業の多くは PBL が中心で講義室での座学は非常に少ないのが特徴的でした。また PBL では、論文検索や情報ソースの確認を徹底されている事もあり、活発な議論とファシリテーターの的確なミニ講義が組み合わせられ、非常に質の高い議論になっていました。

他にもいろいろと書ききれませんが、短い期間に多くの価値ある経験ができました。担当して下さった歯学教育推進室片岡教授を始め、このような機会を与えて頂いた両校の先生方に心よりお礼を申し上げます。



口腔病態診断科学講座主任に就任しました

口腔病理学部門 美島健二

平成25年4月1日より、口腔病態診断科学講座主任を拝命致しました口腔病理学部門の美島健二と申します。口腔病態診断科学講座は、同年4月1日より教授に御就任されました佐野 司先生が担当される歯科放射線医学部門と私が担当させて頂きます口腔病理学部門の2つの部門から構成されております。これら2つの部門は口腔病変の画像診断と病理診断をそれぞれ担い、この「病変の診断」において連携を深めることにより、教育においては、疾患画像と病理組織像の統合を行い、効率よく学生の理解を深めたいと考えます。さらに、臨床においても、疾患の診断を多面的に行うことにより診断精度の向上に努めていきたいと考えます。その中で、当歯科病院においても Picture Archiving and Communication System (PACS, 医用画像管理システム)の導入がなされ、本システムを活用することにより、X線診断画像を広く共有することで、これまで以上に診療の効率化と診断精度の向上が可能になるものと期待されます。口腔病態診断科学講座では、佐野教授と共に部門間の連携を密にし、教育、診断および研究に邁進する所存ですので、今後とも変わらぬご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



スペシャルニーズ口腔医学講座主任 に就任しました

口腔リハビリテーション医学部門 高橋浩二

4月1日付けでスペシャル
ニーズ口腔医学講座主任を
拝命しました。



スペシャルニーズ口腔医学講座は昨年4月の講座再編成に伴い設立され、本年3月まで向井美恵名誉教授が初代講座主任としてその礎を築かれました。本講座は口腔衛生学、歯学教育学、地域連携歯科学、口腔リハビリテーション医学、障害者歯科学、顎関節症治療学の6部門からなり、本学歯学部では最も多くの部門を擁する講座です。歯科臨床においてはスペシャルニーズという障害児・者に対する歯科治療を思い浮かべますが、本講座の臨床では障害者歯科学部門がその専門であり、そのほか小児を中心とした摂食・嚥下障害に対応する口腔衛生学部門、顎関節症やブラキシズムに対応する顎関節症治療学部門と歯学教育学部門、摂食・嚥下障害、言語障害、睡眠時無呼吸症候群や異常習癖に対応する口腔リハビリテーション医学部門、開業医では対処できない患者さんに対応する地域連携歯科学部門があり、たいへん広い意味で“スペシャルニーズ”の臨床を担う講座となっています。私の使命は教育、臨床、研究において6部門の連携を深め、6の力が9にも10にも発揮できるように努力することと考えます。先生方のご指導、ご鞭撻を賜りたく、どうぞ宜しくお願い致します。

富士吉田教育部講師に就任しました

前田 昌子

平成25年4月1日付けで口腔生理学教室より富士吉田教育部の講師に就任いたしました前田昌子です。10数年前に過ごした富士吉田校舎は、4学部になったことで本年度は616人の新入生が入寮してきました。寮の数が増えた事はもちろんですが、食堂が広くなり、校舎も増え、各施設が非常に充実しています。数えるほどしか建物がなかった周辺も、坂上には多くの工場、民家が建ち、坂下にはコンビニ、安売り店など店舗が増え、旗の台より都会なのでは？と思うほどです。学生の足



である長バス（運転手さんの名前からこう呼ばれていた約2

0人乗りのバス）は大型バスになり、2系統走っています。入学式後、富士吉田に到着すると指導担任との挨拶、ウェルカムパーティー、翌日には入寮式。オリエンテーションではアイデンティティー教育として、昭和大学宣言の斉唱、学校の歴史、校歌の意味を含めた練習、と改めて大学の事を勉強させて頂きました。また、本年度から本格開園となった富士吉田自然教育園では学生と共に園内の整備、農作物や花の種を蒔き、収穫を楽しみにしています。指導担任としては20人の学生を受け持ち、自分の経験を生かしながら指導に当たっています。また、実習、講義も担当させていただきながら、忙しくも、楽しく充実した日々を送らせていただいています。教育部初の専任歯学部出身者であるため、歯学部との架け橋となるだけではなく、母校の後輩達の教育に努めていきたいと思っております。

Newsletter vol.6 が発行されました

広報委員長 井上 富雄

歯学部英文広報誌 Newsletter 第6号が刊行されました。表紙は1914年(大正3年)の創建当時に姿に復元されたばかりの東京駅丸の内駅舎です。重厚な歴史を感じさせる駅舎と新緑の若葉のコントラストが、80年を超える歴史を誇りながら、さらに若々しく発展していく昭和大学を象徴しています。



掲載記事の内容は、宮崎学部長の巻頭言、電子ポートフォリオシステムとe-learningシステムの導入、口腔がんセンターの創設、天津医科大学との交流、香港大学で開催された第1回歯科材料3か国シンポジウム、スペシャルニーズ歯科センター、矯正歯科学講座の研究紹介、口腔病理 安原助教と歯周病学講座 大学院生の相澤さんの TRAVEL AWARD 授与による国際学会の参加・発表、海外研修生の紹介、国際交流センターの活動、科学研究費補助金等の競争的外部研究資金の獲得状況、昭和歯学会報告です。Newsletter 第6号は海外学部間提携校や国内の4大学交流校を始め、昭和大学各部署に配布すると共に、昭和大学歯学部ホームページ http://www.showa-u.ac.jp/sch/dent/dent_letters/index.html に掲載いたしましたので、是非ご覧ください。また、別刷りが国際交流センターに保管されていますので、是非、海外交流などの際には、ご活用ください。

英文広報委員：宮崎 隆(歯学部長)、井上富雄(広報委員長)、飯島毅彦、Michael W. Myers、堀田康弘、松田幸子、野中直子、坂井信裕、滝口 尚(敬称略)

CBT ワークショップが開催されました

共用試験 CBT 実施責任者 北川 昇

去る4月27日(土曜日)に旗の台1号館5階会議室とPBLルームにおいて、平成25年度共用試験 CBT ワークショップが実施されました。医療系大学間共用試験評価機構から松尾敬志先生(徳島大教授)、坂上竜資先生(福歯大教授)をタスクフォースにお招きし、宮崎歯学部長、井上教育委員長のご挨拶の後、ワークショップが開始されました。今回の参加者は23名でした。午前中は A・L 問題、午後には W・Q 問題についてそれぞれのレクチャーの後、スモールグループに分かれて事前に作成してきた各自の問題のブラッシュアップを行い、その成果を発表しました。今回の参加者は若手の先生が多く、各グループとも大変活発な討議が行われ、充実したワークショップとなりました。



最後に参加者全員に修了証が授与され、関係者としては次年度の採択率が少しでもアップする事を祈りつつ、ワークショップは無事終了しました。

D2オリエンテーションが行われました

D2学年副主任 口腔病理学部門 入江 太朗

去る平成25年3月25日から一週間にわたり D2オリエンテーションが行われました。初日は宮崎学部長、井上教育委員長の挨拶の後、「歯学部2年生をどう過ごせばよいのか」をテーマに先輩からの体験談の紹介などが行われました。2日目は基礎歯学入門の講義が行われ、3日目は学外施設見学として株式会社ジーシーを訪問しました。4日目は各指導担任の紹介の後、学生ワークショップが行われました。各指導担任のグループごとに1年次の富士吉田での思い出の図を描き、KJ 法による学生生活の問題点とその対策を議論し、それらの発表を行いました。発表会では富士吉田での生活が充実したものであったことが伝わってきました。また、様々な問題点が抽出され、これらは今後の昭和大学の課題になるものと思われました。最終日は臨床歯学入門の講義が行われ、



午後は学内の各施設を2グループに分かれて巡回し、それぞれの場所を確認して解散となりました。

した。指導担任を含めた学部教員との交流を通じ、D2の学生が新しい環境に円滑に溶け込むきっかけとなる貴重な一週間でした。

昇任・採用

広報委員長 井上 富雄

吉濱泰人

(顎口腔疾患制御外科学講座, 准教授昇任)

鎌谷宇明

(顎口腔疾患制御外科学講座, 講師昇任)

渡辺仁資

(昭和大学横浜市北部病院歯科, 講師昇任)

受賞

広報委員長 井上 富雄

小林茉莉 (歯科補綴学講座, 第4回日本歯科CAD/CAM 学会学術講演会 最優秀ポスター発表賞受賞)

森澤絵里 (歯科補綴学講座, 日本補綴歯科学会第122回学術大会 優秀ポスター賞受賞)

鈴木 航 (歯科補綴学講座 大学院生, IADR Hatton Divisional Award 受賞)



行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 6月 6日(木): 医・歯・薬 防災訓練
- 6月 9日(日): 学祖祭
- 6月15日(土): 父兄会総会
- 6月22/23日(土,日): 富士吉田祭祭・オープンキャンパス
- 7月 6日(土): 昭和歯学会
- 7月12日(金): 夏季スポーツ大会壮行会
- 7月13日(土): 歯科病院公開講座
- 7月22日(月): 4学部合同入試説明会
- 7月30日~8月1日(火~木): 歯学教育者のためのワークショップ

編集後記

口腔衛生学部門 内海 明美

GW明けは例年5月病が話題となるのですが、今年は1日の寒暖差が激しいことに起因する寒暖差アレルギーを発症される方が増加しているそうです。自律神経系の不適応なので、鼻水や咳だけでなく、重症になると食欲不振や睡眠障害などの症状も併発してくること。異常気象の影響か、今年は例年よりも10日も早い梅雨入りとなり、ますます不快指数の高まる季節となってしまいましたが、体温調節しやすい服装や環境設定で健やかに過ごしましょう。